

漢方と現代病

7

漢方薬で肺を強め、 様々な肺の難病を改善



中国漢方医師
医学博士
侯 殿昌 先生

1963年中国山東省生まれ。85年中国維坊医学院臨床医療学部卒業。94年東北大学医学部留学。99年同大学院にて医学博士号を取得。専門：難病、がんの漢方治療。現在、国際伝統現代結合腫瘍学会(SIO)会員、日本統合医療学会(JIM)会員、日本東洋医学会会員、日本小児東洋医学会会員。

懐仁堂漢方薬局 福島店

<http://www.kaijindou.com/>

- 住 所 福島市万世町2-8 P/有り
- 電 話 024-526-2581
- 相 談 日 【要予約】
毎週月曜日、水曜日
- 営業時間 AM10:00~PM6:00
- 定 休 日 日曜日、祝日
- 仙 台 店 022-718-5858
- 山 形 店 023-632-8007

懐仁堂漢方薬局の侯殿昌です。一昨年、

昨年続き、3回にわたって漢方についてのお話をさせていただきました。五臓の一つ肺臓は、冬に一番弱い、環境の影響を受けやすい臓器です。子供から高齢者まで、喘息(ぜんそく)をはじめ、肺炎や様々な肺臓の難病が増えています。今回は漢方医学の肺の様々な病気の治療法を紹介します。

漢方の肺の病気と治療法

漢方医学では、肺臓は後天的な臓器で、呼吸機能だけではなく鼻の病気(花粉症・蓄膿症など)、気管支の病気(気管支喘息・咳・たんなど)の原因も肺臓が弱いために考えます。また肺臓が弱くなると、口や鼻から「邪気」の細菌やウイルスが侵入して風邪になり、肺炎になります。もちろん、肺気腫、肺線維症、間質性肺炎、肺がん

どの難病も肺の病気です。

肺の病気の漢方の治療法は「宣肺解表」の肺臓を強めると同時に「清熱化痰、止咳平喘」の「対症治療」も行います。また肺臓は脾・心・腎と密接に影響していると考えます。したがって脾臓、心臓、腎臓が強くなれば肺も強くなり、肺の病気や症状も改善されます。

最近、マイコプラズマ肺炎のように耐性菌、耐性ウイルスが増え、様々な肺の難病も増えています。肺臓を強めて予防することが大事です。

漢の時代の処方

肺の難病に著しい効果

漢の時代から、肺臓の病気を治す漢方薬はたくさんあり、花粉症に効く「小青竜湯」をはじめ「清肺湯」「補肺湯」「清肺解毒湯」

などで肺を強めることにより、喘息、肺気腫、慢性閉塞性肺疾患(COPD)、間質性肺炎、肺線維症など様々な肺の難病への優れた効果が証明されました。中国では肺の難病に広く漢方治療を応用し、効果が出ています。例えば2004年中国科学技術文献社によると、562例の間質性・線維性肺疾患の漢方治療結果は、完治335例(59.6%)、有効183例(32.6%)、無効44例(7.9%)で、総有効率は92.2%です。

当薬局も肺の難病の漢方応用で効果が認められます。息切れ、息苦しい、呼吸困難、歩行困難、会話困難の間質性肺炎の60代男性は、肺を強める漢方薬を2か月服用し、息切れと息苦しいが軽くなり、呼吸が楽になるなど効果が感じられました。咳、たんの肺線維症の50代男性は、漢方薬を3か月服用して咳、たんは改善、6か月後の肺臓のレントゲン検査で肺の影は無くなりました。

冬の風邪、インフルエンザの流行と肺の難病の咳、たん、息切れなどの症状が悪化した時に、西洋医学の治療と肺を強める漢方薬の併用を強くお勧めします。